

令和7年(2025年)度行政評価シート【個表】

令和7年6月20日

評価対象事業		評価者	東アジア文化都市事業担当担当課長 勝 勇樹	
東ア-01	東アジア文化都市事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	東アジア文化都市事業担当
		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	2-(2) 文化	施策の方針	2-(2)-①文化活動の支援・促進

1 事業の目的

対象	市民等
意図	東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図る。
効果	東アジアの国々とともに発展してきた鎌倉のまちの成り立ちや今に引き継ぐ多様な生活文化を再認識・共有することで郷土愛を育むとともに、鎌倉の魅力と価値を広く発信する。

2 令和6年(2024年)度実施した事業の概要

・事業の効果的かつ円滑な運営を目的として、関連団体及び関係行政機関で構成する東アジア文化都市2025鎌倉市実行委員会を組織し、中国(マカオ特別行政区・湖州市)との交流事業の事業のほか、特別事業の実施内容の検討や広報プロモーションを実施した。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和6年度		令和7年度	達成度
				指標(実績値/目標値) 事業費(決算/当初)(千円)		指標(目標値) 予算額(千円)	
01	東アジア文化都市事業	東アジア文化都市2025鎌倉市実行委員会負担金	東アジア文化都市事業の認知度(%)	8.2 / -	-	50	-
				33,158 / 0	0	165,060	
02	一般事務経費	報償費、旅費、交際費、消耗品費、食糧費、郵便料、電信料、筆耕翻訳料、車両賃借料	-	- / -	-	-	-
				902 / 0	0	2,019	
03				/			
04				/			
05				/			
06				/			
07				/			
08				/			
09				/			
10				/			
		財源内訳	国県支出金	/			
			地方債	/			
			その他特定財源	33,148 /			
			一般財源	912 /			
		事業費の合計(千円)		34,060 /	0	0	
		人件費(千円)			15,730	44,066	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	-	-	-	-	3	5
会計年度任用職員	-	-	-	-	0	1

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	東アジア文化都市事業	多くの市民に事業の趣旨や取組を周知し、鎌倉の魅力と価値に触れる機会を創出することで、郷土愛の醸成や次代に文化を継承する機運を高めていく必要があることから、事業の認知度を指標とした。 なお、当該事業については、令和6年8月から事業を開始したため、当初の達成目標については設定していない。	東アジア文化都市事業として行政が主導する交流事業、特別事業を実施するほか、市民が主体的に行う助成・認証事業を支援することにより、市民等による文化活動を支援・促進するという効果が得られていることから構成する事業としては妥当である。	中韓交流都市との連絡調整を踏まえて事業計画が具体性を得るため、市内で開催するイベント等について、先行して市民周知を図ることが難しい。
02	一般事務経費	消耗品等の事務経費のため成果指標は設定していない。	事務経費として必要不可欠である。	特になし。
03	0			
04	0			
05	0			
06	0			
07	0			
08	0			
09	0			
10	0			

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	1 実施済み
	関連・類似する事業の統合はできないか	1 統合済み
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△-負担未導入 △-3 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○-2 市民等と協働して適切に事業を実施している
		○-協働実施済 協働実施済の場合のパートナー 東アジア文化都市事業2025鎌倉市実行委員会

(3) 総合評価

※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 改善・変更	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休止・廃止
東アジア文化都市事業の実施をきっかけとして、将来的に郷土愛(シビックプライド)の醸成や次代に文化を継承する機運のほか、相互理解による国際平和の大切さに対する関心が高まるような事業を展開していく。					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	事業の認知度(鎌倉市が2025年の東アジア文化都市の開催都市に選ばれたことを知っていますか。)						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
多くの市民に事業の趣旨や取組を周知し、鎌倉の魅力と価値に触れる機会を創出することで、郷土愛の醸成や次代に文化を継承する機運を高めていく必要があることから、事業の認知度を指標とした。	目標値	-	-	-	-	-	50	
	実績値	-	-	-	-	8.5		
	達成率	-	-	-	-	-		

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	事業の認知度							
団体名	鎌倉市	静岡県	北九州市	豊島区	奈良市	新潟市	横浜市	
他市実績	-	28.9%	63.2%	60.0%	53.4%	58.0%	29.0%	

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	過年度に実施された東アジア文化都市事業も、本市と同様に1年間の事業期間内に機運醸成を図り、認知度を高めたことから、本市においても同等の認知度向上を達成したいと考えている。
----------------------	---